(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3896549号
(P3896549)
(45)発行日　平成19年3月22日(2007.3.22)　(24)登録日　平成19年1月5日(2007.1.5)

(51)Int.Cl.		F I		
B43L 5/00	(2006.01)	B43L	5/00	A
A47B 97/08	(2006.01)	A47B	97/08	Z

請求項の数 2　(全 5 頁)

(21)出願番号　特願2004-263031(P2004-263031)
(22)出願日　平成16年8月16日(2004.8.16)
(65)公開番号　特開2006-51787(P2006-51787A)
(43)公開日　平成18年2月23日(2006.2.23)
審査請求日　平成16年8月16日(2004.8.16)

(73)特許権者　504343247
増岡　要之助
東京都中央区湊２丁目８番２号
(72)発明者　増岡　要之助
東京都中央区湊２丁目８番２号

審査官　蔵野　いづみ

(56)参考文献　特開平０４－３６８８９６（ＪＰ，Ａ）
実公昭１１－０１８５０５（ＪＰ，Ｙ１）
実開昭５１－００９８３５（ＪＰ，Ｕ）

最終頁に続く

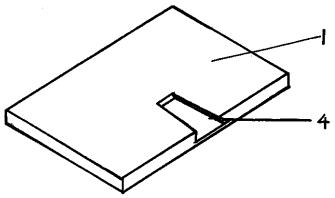
(54)【発明の名称】折畳み携帯用画板

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
蝶番で固着した平板１の片端に所要形状蟻溝を設け、平板２の片端に平行蟻溝を設け各形状の蟻溝に嵌合できる嵌合部材３とで構成されている。嵌合部材３の平行部を平板２の平行蟻溝に嵌入し、嵌入した部材３を平板１の所要形状蟻溝に摺動すると、嵌合部材３によって、平板１と平板２は固着でき、嵌合部材３を平板２に、摺動すれば固着から画板は解除され折畳める状態となる。このように構成され、特徴とする折畳み携帯用画板。
【請求項２】
平板１と平板２に設けた所要な形状蟻溝に嵌合できる部材は、使用する画板の大小により複数を設ける必要もある、折畳み携帯用画板。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、軽量と簡便を図った、折畳み携帯用画板に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来の折畳み携帯用画板は、手間のかかる画板が多く、多数の部品を組立て、締め具やバネ類で構成されているものもある。（実用文献１参照）
【０００３】
製作費が高価と思える摺動片と関係部、不可解な関節部で構成されているものもある。

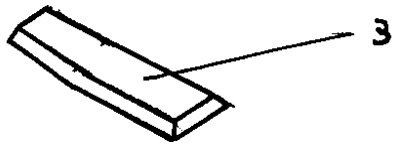
（公開文献２参照）
【０００４】
係止する板２枚の木口に溝、そこに棒を挟むものもあり、不便。（登録文献３参照）
【実用文献１】
実開平０７－１７５９４号　公報
【公開文献２】
公開昭５９－５６０８９号　公報
【登録文献３】
登録明治３９－１０－２３　第３５０号、第１１３号
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
以上に述べた従来の折畳み携帯用画板では、次のような問題点があった。
（イ）バネ、スプリング、金具を用いて、重量があり、画板に厚みが生じ多数の部品とで組立てに時間がかかり、部品の紛失の恐れもあり不便であった。
（ロ）近年は市町村で、カルチャー教室があり、グループの写生旅行に年配者が多く参加し体力、能力に限界があり、狭い車内の持ち運びに、軽便さが要求されている。
【問題を解決するための手段】
【０００６】
本発明は、上記目的を達成するため、平板１に、所要形状の蟻溝４を設ける、平板２に平行な蟻溝５を設け、平板２の平行蟻溝５に、嵌合部材３の平行部を嵌入し、嵌合部材３の所要形状部を、平板１の、所要形状の蟻溝に摺動嵌入する、平板１と平板２は蝶番を取り付ける、平板１と平板２に嵌入した嵌合部材３は、平板１と平板２に摺動すると、固定と嵌脱が容易にできる構成である。
平板１と平板２に設けた所要な形状蟻溝に嵌合できる部材は使用する画板の大小により複数を設ける必要もある、折畳み携帯用画板。
【発明の効果】
【０００７】
上述したように本発明の画板は、折畳み可能と軽量化もされ、組立ての時間も短縮されカバン、リュックサックへ収納と携帯が容易で、写生旅行では、狭い車内での移動で他人に迷惑をかける心配も、解消された。折畳み携帯画板を提供できるものである。
【発明の実施するための最良の形態】
【０００８】
以下、本発明の実施の形態を図１～図５にもとづき説明をする。
【０００９】
図１について、１は平板、４は所要形状の蟻溝、図２について３は、嵌合部材、図３について、２は平板、５は平行蟻溝、図４は組立てた画板で、嵌合部材３が嵌入されている。図５は、折畳んだ画板。
【００１０】
以下、上記構成の動作を説明する。
平板１と平板２に、蝶番６と７を取付し、平板２に設けた、平行蟻溝５に、嵌合部材３の平行部分を嵌入し、嵌合部材３の先端部を平板１の所要形状蟻溝に摺動嵌入することで、平板１と平板２は固定され画板とし形成される。嵌合部材３も、平板２に摺動嵌入すれば、平板１と平板２は固定から解除され、折畳める状態に戻り、携帯できる。
平板１と平板２に設けた所要な形状蟻溝に嵌合できる部材は、使用する画板の大小により複数を設ける必要もある、折畳み携帯用画板。
以上のように、本実施形態に、折畳み携帯画板の効果が得られる。
【図面の簡単な説明】
【００１１】
【図１】　本発明の平板１に、所要形状蟻溝４を設けた斜視図

【図２】　本発明の嵌合部材３の斜視図
【図３】　本発明の平板２に、平行蟻溝５を設けた斜視図
【図４】　本発明の組立てた、折畳み携帯用画板の斜視図
【図５】　本発明の折畳んだ画板の立てた状態の斜視図
【符号の説明】
【００１２】
１　平板１
２　平板２
３　嵌合部材
４　所要形状蟻溝
５　平行蟻溝
６　蝶番
７　蝶番
８　折畳んで立てた画板

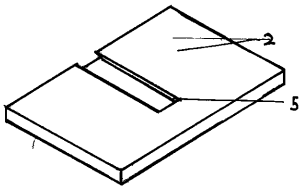
【図１】



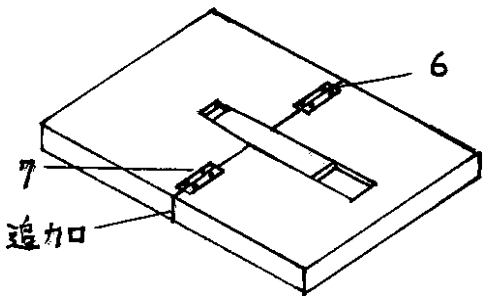
【図２】



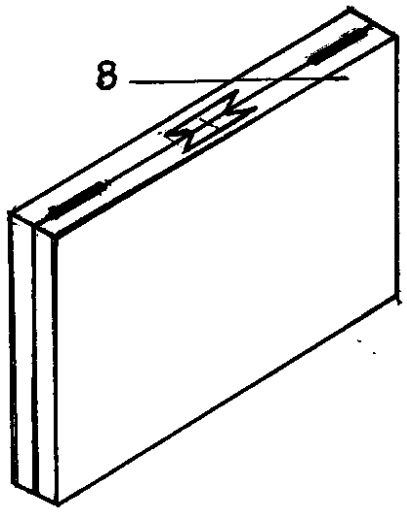
【図３】



【図４】



【図５】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., ＤＢ名)
Ｂ４３Ｌ　５／００
Ａ４７Ｂ　９７／０８